



「殺してはならない」という戒めは、子どもにも分かりきったことではないでしょうか。ところが、現実には大切な生命が軽んじられ、いとも簡単に人が殺されるようなことが私たちの国でも起こります。しかし、「私は殺人をしていないから無関係」と言えるのでしょうか。私たちにとっても身近な自死のこと、人口妊娠中絶や出生前診断のこと、安楽死や尊厳死のこと、そして戦争や飢餓の状態のこと。私たちは「殺してはならない」という戒めをどのように聴くのでしょうか。

① なぜ、殺してはいけないのか

“わたしは、あなたをエジプトの地、奴隷の家から導き出したあなたの神、主である。” 20:2

“神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに世を愛された。それは御子を信じる者が、一人として滅びることなく、永遠のいのちを持つためである。” 3ヨハ3:16

② 殺人を生むものに気がつくこと

“昔の人々に対して、『殺してはならない。人を殺す者はさばきを受けなければならない』と言われていたのを、あなたがたは聞いています。しかし、わたしはあなたがたに言います。兄弟に対して怒る者は、だれでもさばきを受けなければなりません。兄弟に『ばか者』と言う者は最高法院でさばかれます。『愚か者』と言う者は火の燃えるゲヘナに投げ込まれます。” マタイ5:21-

“兄弟を憎む者はみな、人殺しです。あなたがたが知っているように、だれでも人を殺す者に、永遠のいのちがとどまることはありません。” 1ヨハ3:15

③ ともに生きる道を求める

“自分に関することについては、できる限り、すべての人と平和を保ちなさい。愛する者たち、自分で復讐してはいけません。神の怒りにゆだねなさい。こう書かれているからです。「復讐はわたしのもの。わたしが報復する。」主はそう言われます。…悪に負けてはいけません。むしろ、善をもって悪に打ち勝ちなさい。” 0-712:18-

“肉のわざは明らかです。すなわち、淫らな行い、汚れ、好色、偶像礼拝、魔術、敵意、争い、そねみ、憤り、党派心、分裂、分派、ねたみ、泥酔、遊興、そういった類のものです。以前にも言ったように、今もあなたがたにあらかじめ言うておきます。このようなことをしている者たちは神の国を相続できません。しかし、御霊の実は、愛、喜び、平安、寛容、親切、善意、誠実、柔和、自制です。このようなものに反対する律法はありません。”

<話し合ってみましょう>

- ・「殺してはならない」とは誰でも当然とわかっていながら、現実には悲惨な殺人等が絶えない私たち人間の現実について、何が根本的な問題なのかを考えてみましょう。